取扱説明書

この説明書はPW-Fpフレームの操作方法、注意事項について解説しています。処方上の注意点(座り方・リクライニング角度・使用時間ほか)については処方者の指示にしたがってください。

PW-Fp

Positioning
Wheel
Forward posture.

PW-Fpの特長

- ●前傾まで設定できるティルト角度範囲
- ●バックサポートフレームは、張り調節スリングタイプと平面形状型やモールド型が装着できるベーシックタイプの2パターンから選択可能
- ●座奥行き調節付き
- ●フットサポート高さ調節付き
- ●膝部角度可変機構
- ●フットサポート角度可変機構(アジャスターボルト式)
- ●はね上げ開閉式アームサポート金具
- ●押し手グリップ高さ調節式
- ●大型バスケット(オプション)
- ●NJ-D(ダイヤルロック式)ヘッドサポート金具(オプション)

PW-Fpを正しく、お使いいただくための、大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

目　次

- ● 安全にお使いいただくために‥‥P1・2
- ● 各部の名称‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P3・4
- ● 製品構成‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P3・4
- ● オプション部品‥‥‥‥‥‥‥‥P4
- ● 使用前点検‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P4
- ● 各部の取り扱い‥‥‥‥‥‥‥‥P5・6・7・8
- ● オプション部品について‥‥‥‥P9・10
- ● 折たたみ方・開き方‥‥‥‥‥‥P11・12
- ● 開き防止ベルト‥‥‥‥‥‥‥‥P13・14
- ● ティッピング操作‥‥‥‥‥‥‥P15
- ● お手入れメンテナンス‥‥‥‥‥P16
- ● 仕様‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P16

安全にお使いいただくために

本書記載事項以外の使用はしないでください。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●警 告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

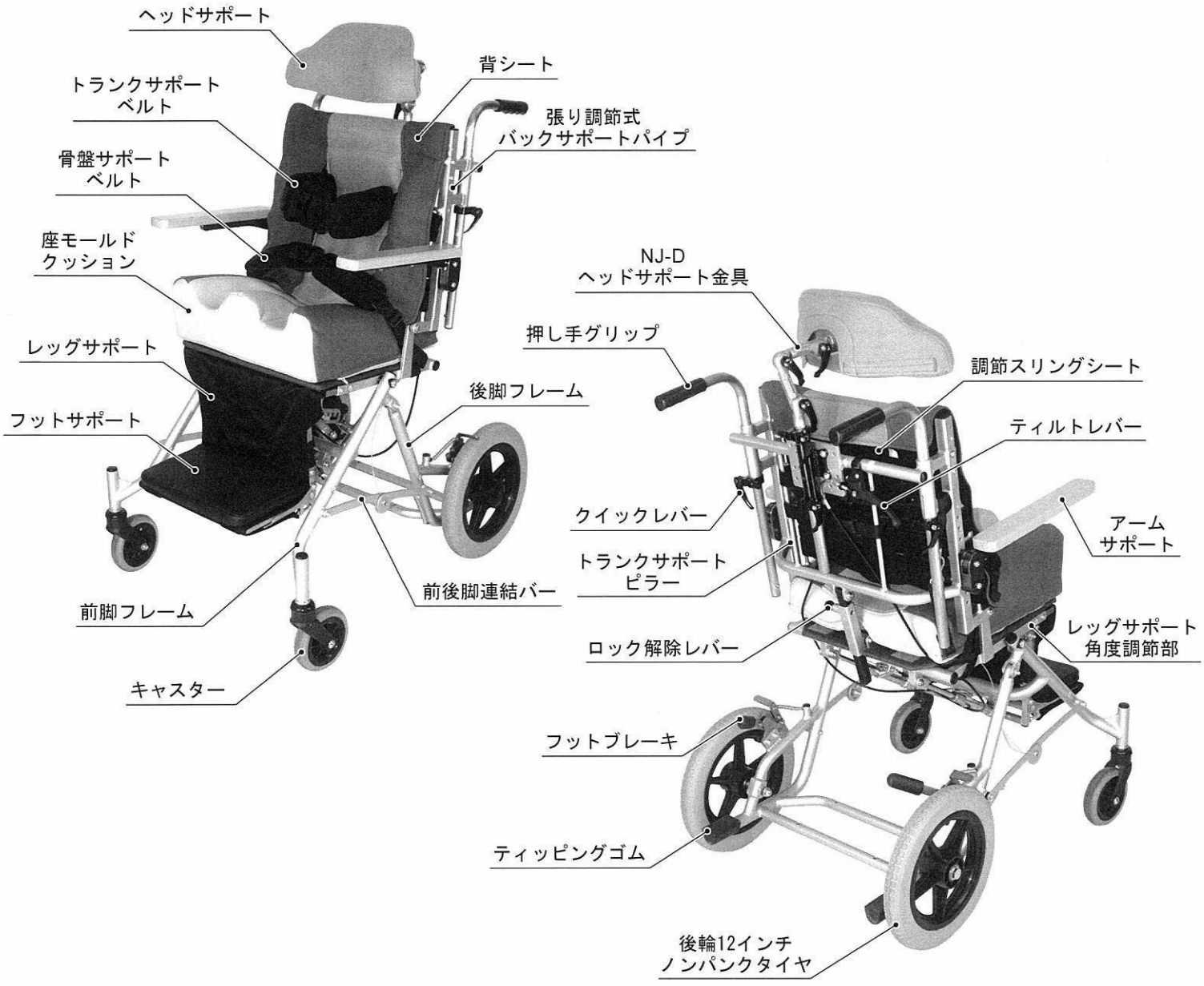
- 本人を乗せたままで放置しないでください。
- はずみをつけたり、いきおいをつけて突き放すなどの移動（走行）はしないでください。
- フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- エスカレーターでは使用しないでください。（一般的にも禁止されています。）
- 子供に操作させないでください。
- 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
  （ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけていても勝手に走り出す場合があり大変危険です。やむをえず駐車するときは、必ず介助者が付きそってください。）
- 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。
- 本人を座らせたままで抱えて移動することは、大変危険なのでおこなわないでください。また、持つ位置によって各部の機構が急に動いてしまったり、フレームが急に折りたたむなどして、介助者の手をはさむおそれもあり、大変危険です。
- 乗せ降ろしをするときは、必ずブレーキをかけてください。
- 火気に近づけないでください。シートに引火する、またはフレーム本体が熱くなり火傷するおそれがあります。
- 自動車の中では使用しないでください。
- 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- 改造や分解はしないでください。

●注意（使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。）

- PW-Fpフレームは構造フレームです。搭載される背もたれ座面などの支持部の調整や不具合については、取り扱い業者にご相談ください。
- 医師の処方で製作された場合
  - 本人以外での使用はしないでください。（個人用に処方されたものとなりますので、安易に貸し出したりしないでください。）
  - 処方目的以外での使用はしないでください。
- 段差を越えるときは、押し手グリップとティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、ケガをするおそれがあります。
- エスカレータの出入り口付近（特に手すり巻き取り部）、エレベータ、自動ドア等の付近を走行するときは、キャスター部周辺などがはさまれないように注意してください。
- 悪路や坂道では特に注意して走行してください。バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- 折りたたんだ状態で持ち運ぶときは、車輪のついているベースフレーム（パイプ）部を持ち、下からかかえ上げるようにしてください。背・座フレームや可動部など、持つ位置によっては思いがけずフレームが拡がってしまうなどして、指や手をはさむおそれがあり大変危険です。
- 本人が座った状態でのティルトリクライニング操作は、体重がかかり急にティルトする（倒れる）ことがありますので、十分に注意して操作してください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどしてけがをするおそれがありますので、周囲の状況に十分に注意して使用してください。
- 折たたみ、および開き操作の途中の段階では使用しないでください。
- 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 子供を背もたれなどにぶらさがらせないでください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- 子供の遊び道具として使用しないでください。
- 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。後方に倒れることがあります。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- 体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ティルトリクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- 定期的に処方者・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強いカや衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。特にメカロックは、水にぬらさないよう注意してください。
- 水中では絶対に使用しないでください。
- 荷物等の運搬に使用しないでください。
- 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには（不要になったときには）取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称　PW-Fp背スリング仕様



製品構成

PW-Fpスリング仕様

	個　数
● 基本フレーム	1

●調節スリングシート(背)		1
体幹サポート インナーパッド	体　幹	左右1対
	骨　盤	左右1対
アームサポート(木部)		左右1対
レッグサポート		1
足　台		1

	個　数
●シートユニット	
ヘッドサポート	1
背シート	1
座シートクッション	1
トランクサポートベルト	1
骨盤サポートベルト	1

各部の名称

PW-Fpベーシック仕様





製品構成

PW-Fpベーシック仕様仕様

	個　数
● 基本フレーム	1

オプション部品

● NJ-Dヘッドサポート金具
● 転倒防止装置
● キャリパーブレーキ
● トランクサポートベルト※
● 骨盤サポートベルト※
● 日よけ
● アンダートレー(ハードタイプ)

※印のベルト類はスリング仕様の専用オプション部品となります。

使用前点検

◎各部のロック部が確実に効いていることを確認してください。

◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。

◎リクライニング機構がスムーズに作動することを確認してください。

◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。

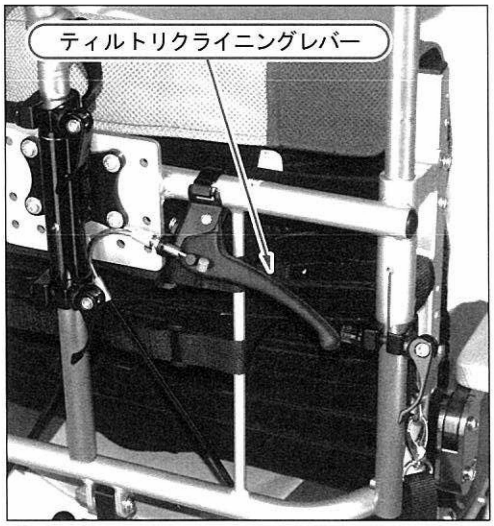
◎破損しているところがないか確認してください。

◎折りたたんだ状態から開いたときは、各部のロックが確実に効いているなど、正しく拡げられていることを確認してください。

各部の取り扱い

●ティルトリクライニングレバー

背もたれからフットサポートまでが一体となって、背座両面角一定のままティルトリクライニングします。







ティルトリクライニングレバーは、無段階で調節がおこなえます。
レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック（角度設定）できます。

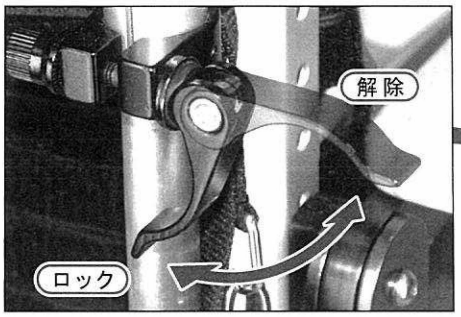
- ティルトリクライニングするときは、必ず両手で操作をおこなってください。乗っている人の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。
- お子様には絶対に操作させないでください。
- 操作レバーのあそびが多くなってきたら、ワイヤーの張り調整をおこなってください。

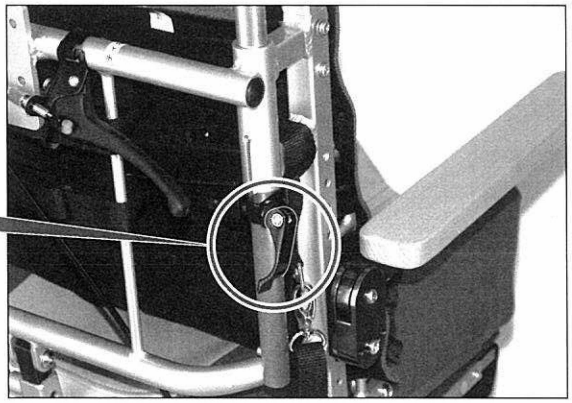
●押し手高さ調節

ワンタッチ操作でロックを解除することができるクイックレバーにより、押し手の高さと方向を無段階調整することができます。

クイックレバー

※レバーを水平に開くと解除、90度に曲げ込むとロックします。
（別紙参照）
使用前にはロックが十分に効いていることを確認してください。

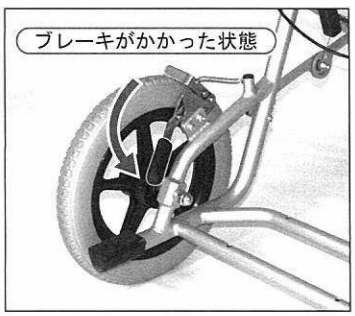


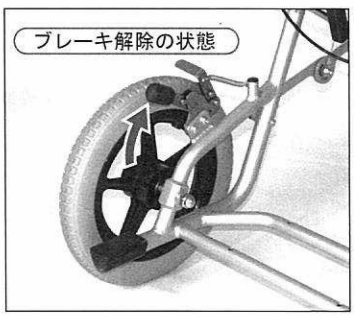


- 押し手グリップの固定にはクイックレバーを使用しております。クイックレバーは、ワンタッチで強力な固定力を得られますが、一方で締め過ぎによって不具合が生じる場合もあります。別紙の調整方法にしたがって正しく調整をおこなってください。
- レバーは下側に向けてロックしてください。後方に向けてロックすると飛び出たようになり危険です。

●フットブレーキ

ブレーキレバーを下方に踏み込むとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。
フットブレーキの操作は、できるだけ上・下方向から操作するようにしてください。斜めや横方向からの力が加わると、部品の不具合や破損を引き起こしやすくなります。



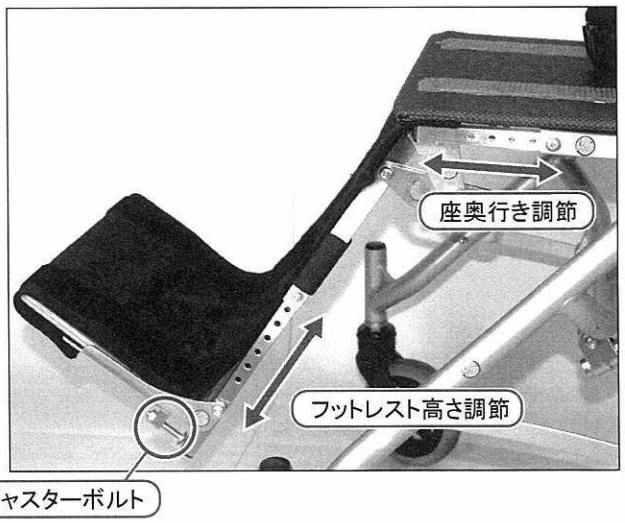


- 乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ブレーキの効きが弱く感じられる場合は取り扱い業者にご相談ください。

各部の取り扱い

●座奥行き調節とフットサポートの高さ・角度調節

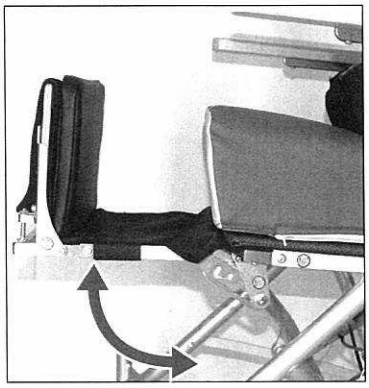
使用される方の大腿長、下腿長に合わせて、座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。
ボルト・ナットにより設定されています。
座奥行き調節は20㎜間隔で、フットサポートの高さ調節は10㎜間隔で調節できます。(Sは20㎜間隔)
またアジャスターボルトの設定により、フットサポートの角度を足関節で低屈、背屈方向に調整することができます。



●レッグサポート金具の角度設定

使用される方の身体状況、姿勢変化によってレッグサポートの角度可変がおこなえます。
膝関節の角度で伸展方向と屈曲方向に４段階に設定できます。
座フレーム先端にあるレッグサポートエレベーティング金具を指で押し上げると解除することができます。解除したまま、任意の角度に合せたらエレベーティング金具を戻して、角度設定してください。







レッグサポートエレベーティング金具

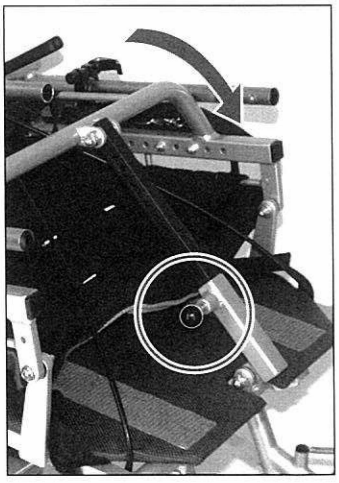
手ばさみ注意！

●背折りたたみロック解除

背フレームを折りたたむ際に操作します。背フレーム後面にある解除ノブを引くと、ロックが解除されて背フレームが折りたたみます。背フレームを開くだけで、自動的にロックされますが、使用前にはロックがかかっていることを確認してください。また、このロック解除部は背座両面角、角度の設定部品をかねています。部品交換により、背座両面角度の変更(注)もおこなえます。



折りたたみ時(ロック解除)


開く時(自動ロック)

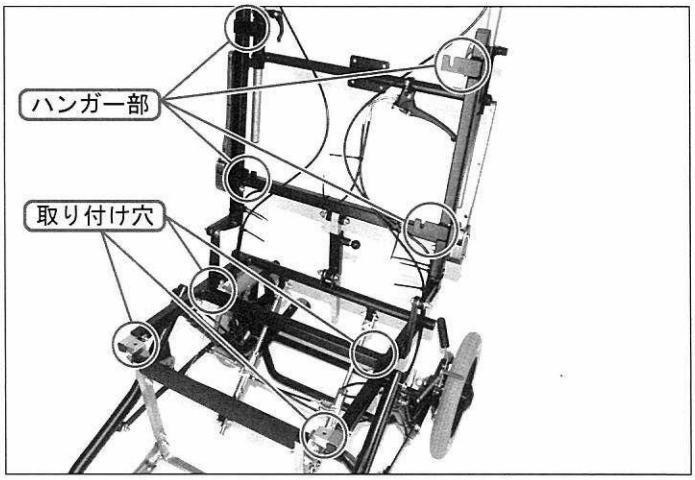
・背もたれ開閉時(折りたたみ・拡げ時)に手や指をはさまないよう、持つ位置に注意して開閉をおこなってください。

各部の取り扱い

バックサポートベーシックタイプ仕様

●背もたれ、座面(支持部)の取り付け方法

背フレームにある4ヶ所のハンガー部と、座フレーム本体、座奥行調節金具にある計4ヶ所の取り付け穴で、背もたれ・座面(支持部)をタッピングビスやボルト類で取り付けてください。

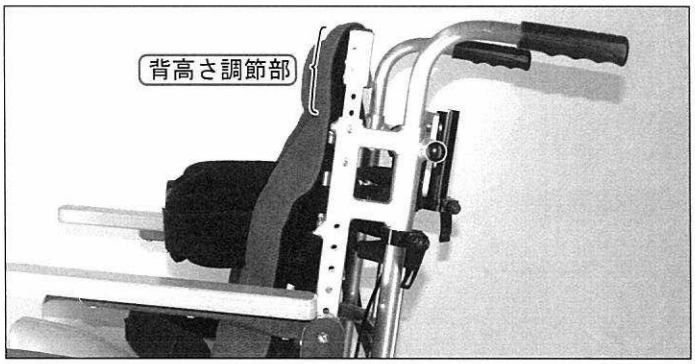


- 折りたたみをする際は、バックサポート(背もたれ)を取り外す必要があるため、バックサポートを取り付けるビス・ボルトは取り外しを考慮して締めこむようにしてください。
- 背フレームハンガー部は、バックサポートを上方にスライドして取りはずすことを想定しています。しかし、使用時においてはバックサポートが不用意にはずれないよう、着脱できるベルト部品などで固定をしてください。

バックサポートスリングシート仕様

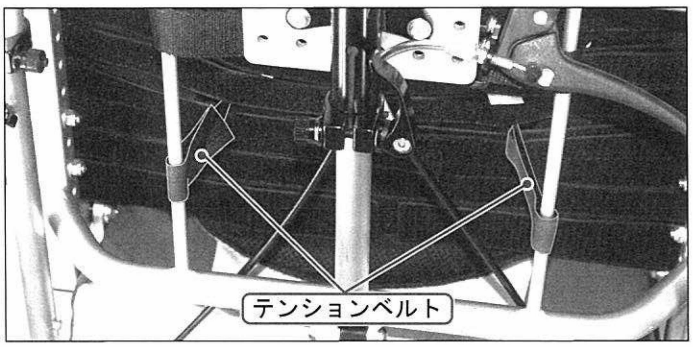
●背高さ調整

使用される方の座高に合わせて、背もたれの高さが調整できます。
ネジを差し換えることで高さを調節できます。
高さ調節は、1穴20㎜間隔で伸ばせます。



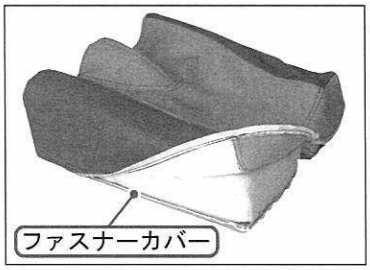
●背スリングシートのテンションベルトについて

背スリングシートの余分なたわみを減少させ、サポートインナーパッドの支持力を向上させる目的で、背スリングシートを後方に引っ張るテンションベルトを装備しています。背スリングシートの調整をおこなう際は、テンションベルトを一度ゆるめて、調整後にはしっかり引き直してください。



●座クッションについて

PW-fpスリングタイプには、(オプションで)モールドタイプの座クッションがあります。
この座シートクッションには、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカーサポート(ウェッジ)と脚の開きを支える外転防止パッドが備わっています。また、内側に閉じてくる脚をサポートする内転防止パッド(ポメル)も形成されています。



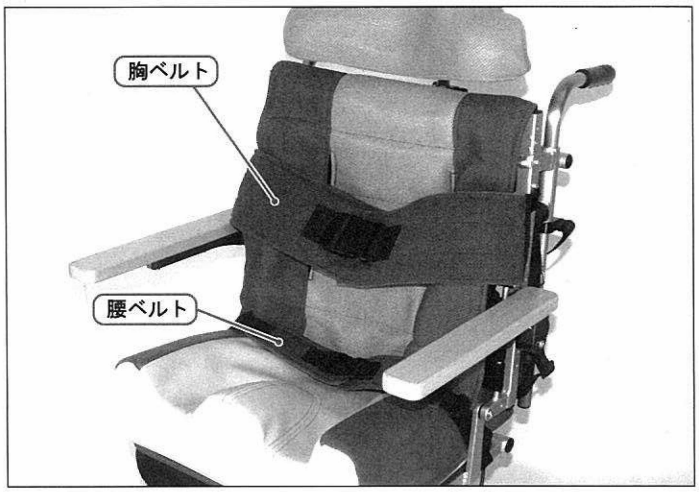


※カバーを布地で製作された場合は、決してクッションが入ったままで洗濯しないでください。
・ウレタンクッション、カバーともに乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。

各部の取り扱い

●胸・腰ベルトのバックルについて

処方上必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。
ベルト類はバックルをカチッと奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。
胸ベルトは取り付け高さと長さ、腰ベルトは長さの調節ができます。



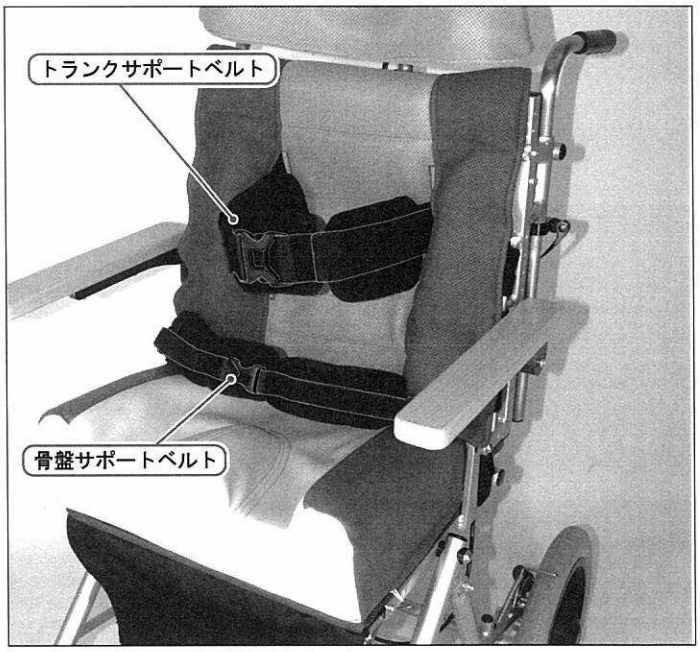
⚠ ・処方上必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。ベルトを装着せずに走行すると、転落のおそれがあり危険です。常に安全ベルトを装着することをおすすめします。

●トランクサポートベルト

身体に近い背シートのダブルファスナーから取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。長さと取り付け高さの調節がおこなえます。(マジック式)取り付けの際、高さを合わせる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかりとじてください。装着時には、正面のバックルをカチッと奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

●骨盤サポートベルト

クッション性の高い腸骨パッド(左・右)によりベルトの当たりを柔げ、またサポート力を高めるためにバックルの左右にあるマジックテープでベルトの締め加減の微調整をおこなうことができます。(この微調整はベルト装着後におこなうことも可能です。)ベルト全体の長さは、取り付け部のアジャスターで調節してください。



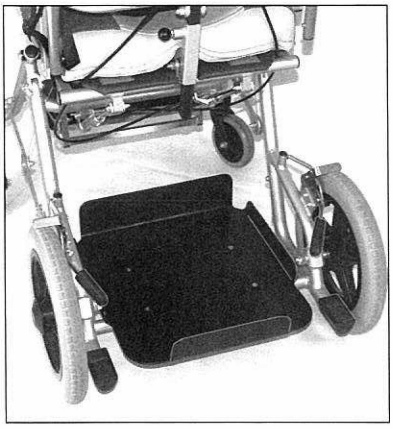
⚠ ・処方上必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。
・ベルト類はバックルをカチッと奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。

●アンダートレイ・ハードタイプ（オプション部品）

後脚フレームにアンダートレイ、ハードタイプ(荷物搭載台)を取り付けることができます。ボルト、ナットで固定するため、脱着はできませんが、アンダートレイを取り付けたまま本体を折りたたむことができます。

⚠ ・アンダートレイに足をかける、踏みつける、または、兄弟児を立たせる、座らせるなど、決してしないでください。
・ティッピングする際にアンダートレイを踏まないでください。破損するおそれがあります。

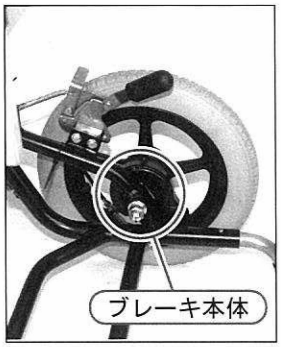




各部の取り扱い ［オプション部品］

●キャリパーブレーキ（オプション部品）

走行中や坂道でスピードを加減するブレーキです。
ブレーキレバーは、両方同時に均等な力で握ってください。
片側だけ強く握ると、車いすの向きが急に変わってしまい危険です。

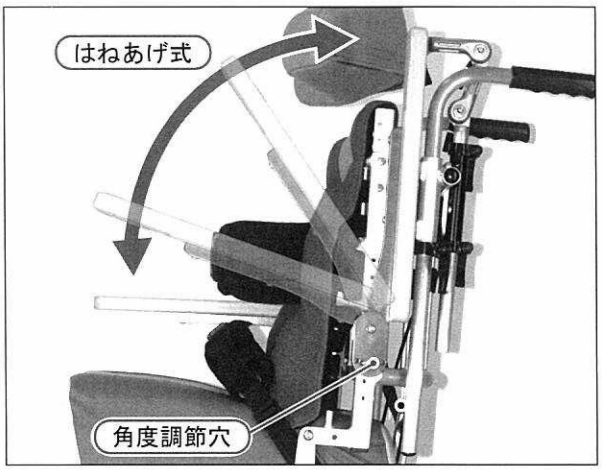




・キャリパーブレーキの効きが弱くなってきたと感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの張り調整をおこなってください。

●アームサポート（オプション部品）

・乗せ降ろしを横からもできるようにはね上げ開閉式となっています。
・使用される方の肘の高さに合わせてアームサポートの高さを調節できます。（ボルト・ナットによる差し替え式）
また、ティルト角度を倒し気味で設定した場合は、アームサポートの角度調節穴と5㎜ボルト用のネジ穴で（テーブル面など）水平に近い角度に設定することもできます。



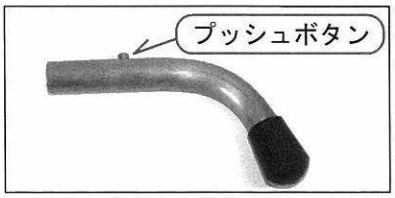
・開閉のロックはついていません。指はさみや衣服のかみこみに十分注意してご使用ください。

●転倒防止装置（PW-Fp専用オプション部品）

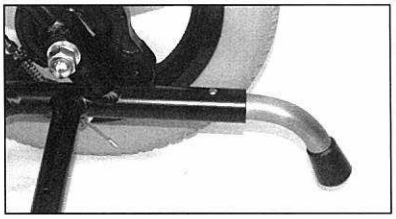
使用されている環境条件（坂道や傾斜があるなど）や、またはティルトしたときの後方安定性に不安定な様子がみられたときは、転倒防止装置を取り付けてください。

（取り付け方法）

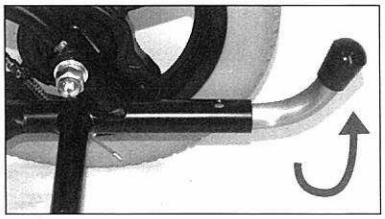
ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。プッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出て固定されます。介助走行において転倒防止装置が段差でひっかかるなどするときは、プッシュボタンを操作して上向きに設定（解除）することもできます。
取り付けた後、または解除したときは、転倒防止装置が確実に固定されていることを必ず確認してください。



転倒防止装置



転倒防止装置を取付けた状態

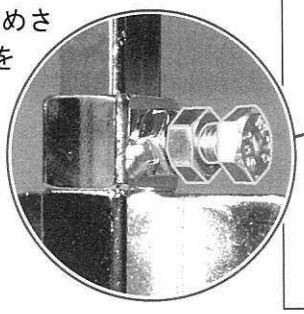


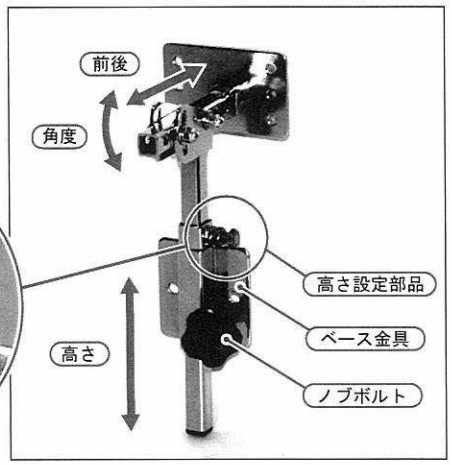
解除した状態

・転倒防止装置は後方への安全を確保するためのものなので、ティッピングによる段差越えは困難になります。段差を越えるときは、段差の少ないところを探すか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。
・転倒防止装置と地面の間で足などをはさまないよう注意してください。

●NJ-2ヘッドサポート金具（オプション部品）

- NJ-2ヘッドサポート金具は、前後･角度･高さの調節がおこなえます。
- 前後方向、角度はボルト･ナットによる調節方法です。
- 高さは、ノブボルトで任意の高さに設定した後、高さ設定部品をNJ-2ベース金具の上面にあてて、六角ボルトを締めさらにナットを締めこんでください。ヘッドサポートを取り外して再び装着しても、その高さ設定を一定に保つことができます。

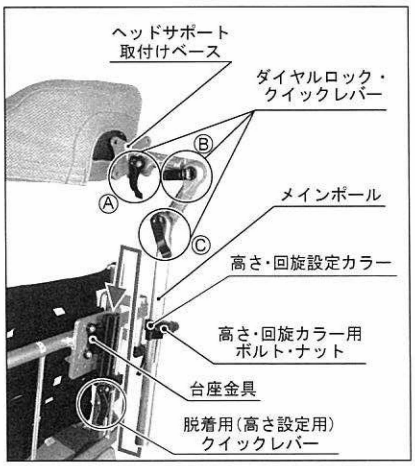




●NJ-Dヘッドサポート金具（オプション部品）

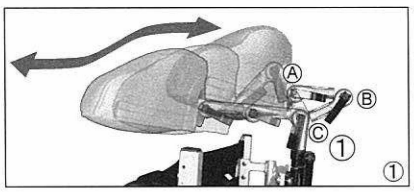
- NJ-D（ダイヤルロック式）ヘッドサポート金具は、三ヶ所のダイヤルロックにより、頭部（ヘッドサポート）の角度、前後、高さ（※）の調節がおこなえます。
  高さと回旋方向は、メインポールの方で調節、設定がおこなえます。
  作業場面や食事場面での頭部の位置、また、呼吸しやすい頭部の角度・向きなど、場面に応じてフレキシブルに変更することができます。
  ダイヤルロックの刻み一段階は7.5度ですが、三ヶ所（軸）同時に動かすことで自由度の高い調整がおこなえます。
  ワンタッチで解除とロックができる「クイックレバー方式」により、簡単に調節がおこなえます。

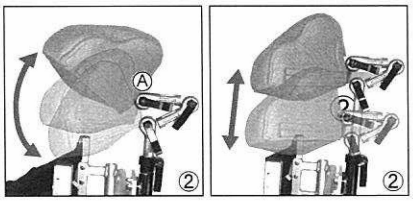
※ダイヤルロックのみの高さ調節は、同時に前後方向の動きもともないます。垂直方向のみであれば、メインポールの方で調節してください。



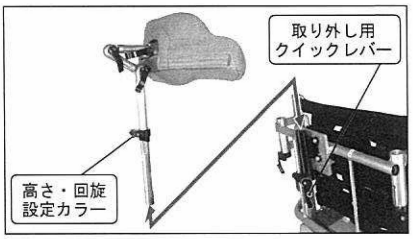
- **使用方法**

  使用する目的や場面によって調節する範囲も異なるため、調節方法もⒶⒷⒸの三ヶ所全てを解除して前後方向に大きく動かして合せる方法①。
  または、頸部に近いⒶのダイヤルロック一ヶ所を動かして合せる方法②などもあります。
  いずれの方法にしても、目的に応じたふさわしい頭部の位置について、お医者様やセラピストの先生に伺いながら適切に調節をおこなってください。

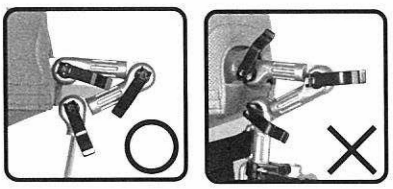




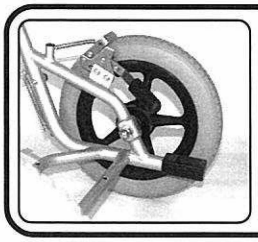
- 取り外し用クイックレバーを操作してロックを解除すると、ヘッドサポート金具をメインポールから引き抜いて脱着することができます。



- ヘッドサポート金具を取り外す際は、「取り外し用レバー」のみを操作してください。その上にある、高さ、回旋用レバーを操作してしまうと、調節をおこなったヘッドサポートの設定が変わってしまいます。
- クイックレバーをロックするときは、手ばさみに注意してください。
- クイックレバーは、外側へ放射線状にとび出さないよう、必ずダイヤルロック本体に添うようにロックしてください。外側に向けてロックすると、レバーが突出した状態になるため、衣服やものを引っかけたり、ケガをするおそれがあります。



折たたみ方・開き方

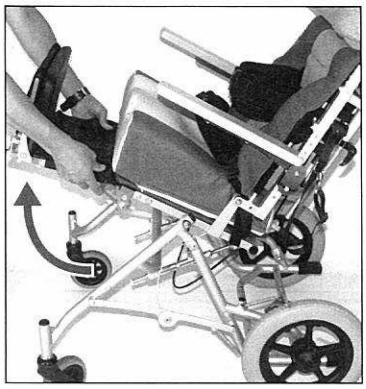


折りたたみ・開き操作のときには、フットブレーキ(左・右)をかけてください。

- 折りたたみおよび開き操作のときは、各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- 傾斜や段差がある不安定な場所では、作業をおこなわないでください。
- 折りたたみおよび開き操作時は、床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

〔折たたみ方〕

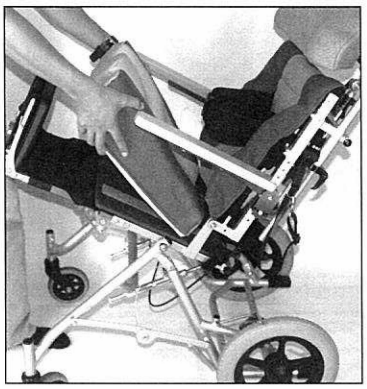
1 レッグサポートを上げます。



レッグサポートエレベーティング金具を操作して、上げきった状態に設定してください。

手ばさみ注意！

2 座クッション(バックサポート)を外す。



座クッションを取り外してください。(マジック面で貼り付けています)

※PW-Fpベーシックタイプの場合は背もたれを上方に引き抜いて取り外してください

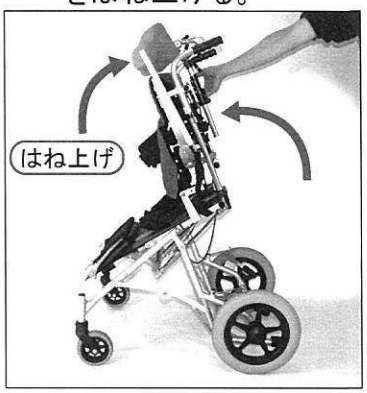
3 フットサポートをたたむ。



フットサポートを折りたたんでください。

手ばさみ注意！

4 ティルトリクライニングを起こして、アームサポートをはね上げる。



ティルトリクライニングレバーを握り、ティルトリクライニングを最大にとまるところまで起します。アームサポートもはねあげてください。

手ばさみ注意！

〔拡げ方〕

1 開き防止ベルトを解除する。

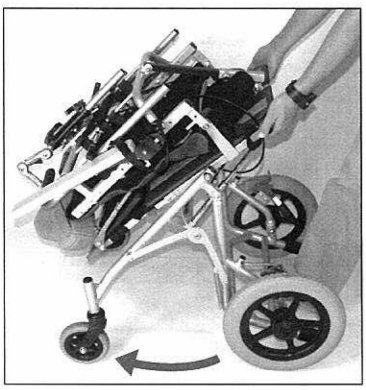


開き防止ベルトのロックを解除します。

※くわしくは14ページを参照してください。



2 ベースフレームを拡げる。



前脚と後脚を開いてください。

手ばさみ注意！

3 背フレームを開く。



背フレームを開いてください。背折りたたみロックが「カチッ」と音がして自動的にロックされます。

- 使用前にはロックがかかっていることを確認してください。
- 3 の手順において、ティルトレバーを操作する必要はありません。部品がフレームにぶつかって開かなくなることがあります。

手ばさみ注意！

4 フットサポートを開く。



フットサポートをもどして(開いて)ください。

手ばさみ注意！

・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具がDリングに確実にかかっていることを確認してください。
・開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
・開き防止ベルトの取り扱いについては、14ページを参照してください。

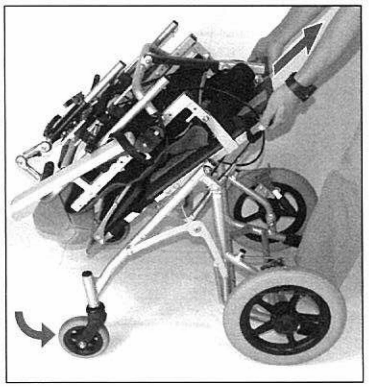
5 背フレームを折りたたむ。



背折りたたみロックを解除して背フレームを折りたたんでください。

手ばさみ注意！

6 ベース(前・後脚)フレームを折りたたむ。

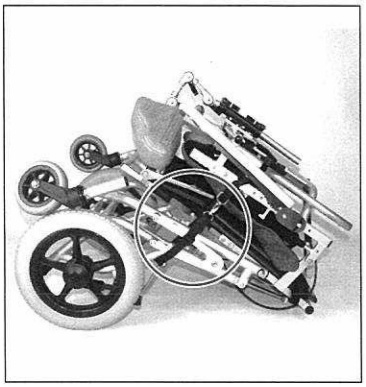




座面後部の丸パイプをもって斜め後方へ(矢印の方向)引き上げてください。下フレームが(前足)が後方へたたまれます。

手ばさみ注意！

7 開き防止ベルトをフレームにまわして固定する。



背フレームについている、折りたたみ開き防止ベルトで背・後足を固定してください。
※くわしくは14ページを参照してください。

5 アームサポートを戻す。



アームサポートを下げてください。

6 座シートクッションを取り付ける。



座シートクッションを取り付けてください。所定の位置にマジック面で貼り付けます。

※PW-Fpベーシックの場合は、背フレームにある4ケ所のハンガー部に背(バックサポート)のビスを落とし込んで、背もたれを固定します。

7 レッグサポートを戻す。



レッグサポートエレベーティング金具を操作して、レッグサポートを戻して(閉じて)ください。

手ばさみ注意！

8 ティルトリクライニング角度を設定する



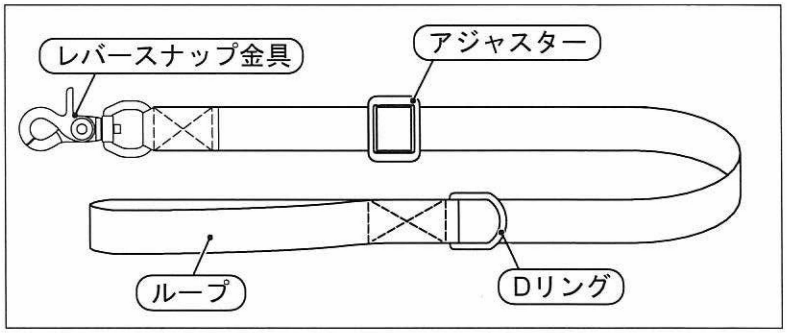
ティルトリクライニングを適切な角度に設定してご使用ください。

開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはPW-Fpを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。
取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

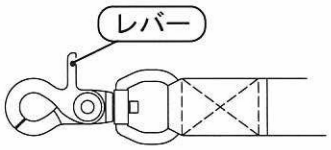
● 開き防止ベルト・各部の名称

- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- 折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。

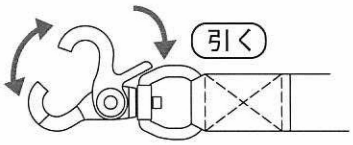


● レバースナップ金具の取り扱い

レバースナップ金具をDリングにかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。開いたままDリングにかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。



- 開閉部は親指でレバーを引くと開きます。

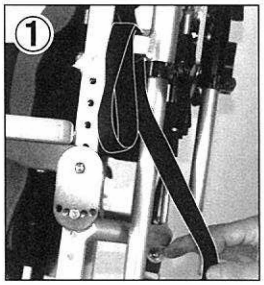


- ロックする(閉じる)ときはバネの力で戻ります。

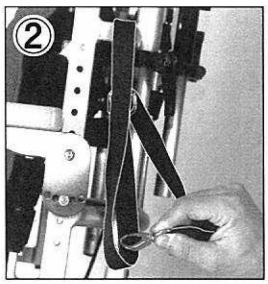
⚠
- レバースナップ金具の開閉部で指などをはさまないように注意してください。
- Dリングにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。

■ 本体への取り付け方法

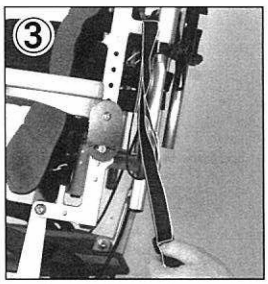
開き防止ベルトは、左右どちらかの背フレームパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています)
取り付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。
PW-Fpを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後足フレームの車輪付近でしっかり巻くことができます。



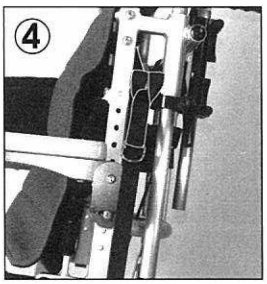
Dリングが正面になるようにループを背パイプ内側から背フレームのスリット(またはスリングの間)に通します。



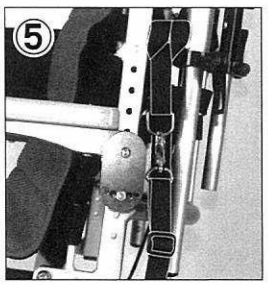
ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。



ベルトがねじれないように注意して通してください。



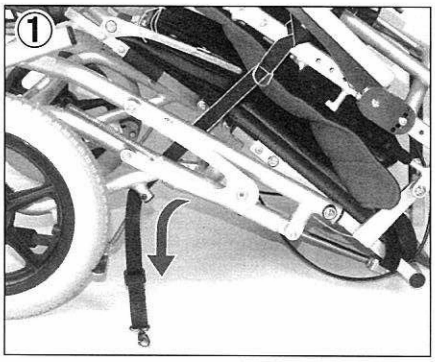
ループのところに余分なあまりやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。



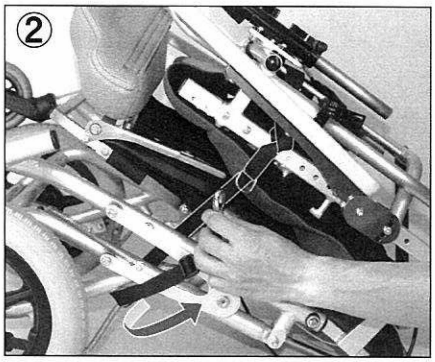
通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をDリングにかけてください。

⚠
- 開き防止ベルトに搭乗者が手指をからませたり、また周辺の人や物にひっかからないように注意してください。
- メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取り付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないレバースナップ金具がDリングにかかることを必ず確認してください。

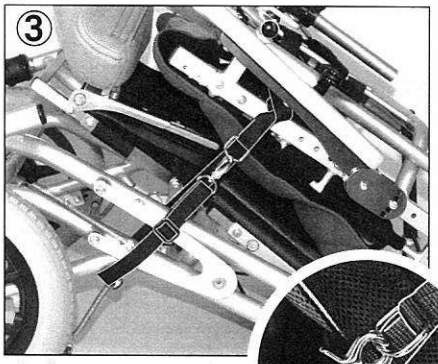
開き防止ベルトの使用方法

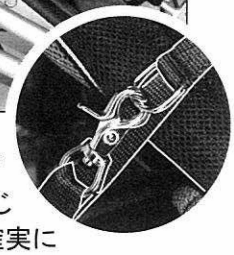


折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトを後足フレームの内側へ通します。ベルトがねじれないように注意してください。



後足フレームを巻くようにして折り返し、レバースナップ金具を操作してDリングにかけてください。





バギーを持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。

- 開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などをはさまないように注意してお取り扱いください。
- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- 開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態（ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど）では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

■車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

自動車のトランク（荷室）に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図Ⓐのように、後輪のついている後足フレームをつかんで、下からPW-Fp全体をかかえるようにして持ち上げてください。

図ⒷⒸのように、背フレームのパイプのみ、もしくは前輪キャスターのついている前足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。

Ⓐ



○後足フレームを持ち、全体をかかえてください。

Ⓑ



× 背パイプのみを持っている。

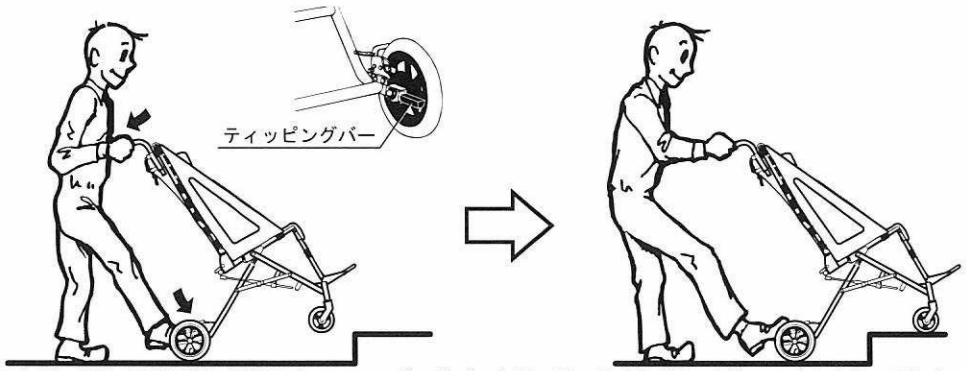
Ⓒ



× 前足フレームのみを持っている。

ティッピング(前輪上げ)操作の方法

●段差を乗り越える方法について



歩道の縁石などの段差を乗り越える場合は、ティッピングバーを踏み込みながら押し手グリップを手前に引き寄せ、まず前輪キャスターを段差に乗せ、次に後輪を浮かせ乗り越えてください。絶対に勢いをつけて乗り越えようとしないでください。

ティッピングバー以外のフレームは踏まないでください。フレームに負担がかかり破損の原因になります。

押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

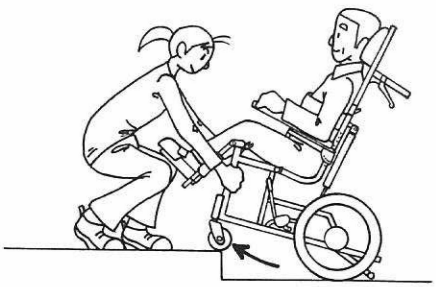


急な登り坂



急な下り坂

急な坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登るときは前向きで、下るときは後ろ向きで押してください。とくに、下るときに前向きだと前方へ転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあります。



ティッピング操作による段差越えが難しい場合は車体前方を直接持ち上げてください。

◎リクライニング車などは、後輪が後方に位置しているので、押し手グリップとティッピングバーの操作での段差越えが困難な場合があります。正しいティッピング操作でも無理におこなうと車いすが破損する原因になります。
そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。



※ティッピングバーを利用せずに押し手グリップだけの操作で無理に前輪を上げようとすると、車いすが破損するおそれがあります。
必ず押し手グリップとティッピングバーの両方を利用してください。

押し手グリップだけの前輪上げは禁止

お手入れ・メンテナンス

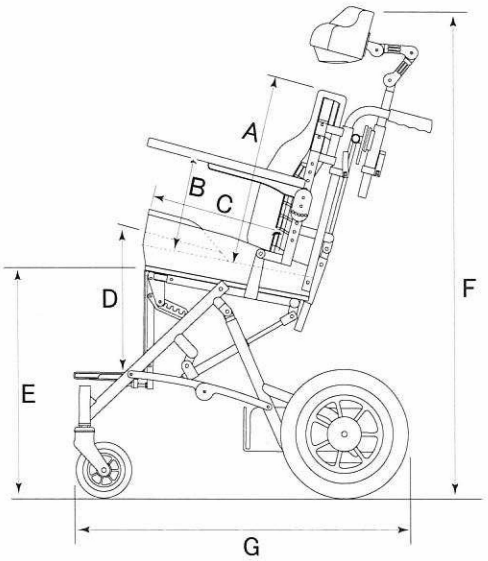
- フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布地で拭きとってください。
  ※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
  ※特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- 可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
  ※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- 保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。
- 調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。

仕　様

スリング仕様

	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ
フレーム全幅（アームサポート外～外）	mm	470	495	520
車　幅（タイヤ外～外）	mm	570	595	620
背　幅	mm	410	435	460
座　幅	mm	365	390	415
足台幅	mm	270	295	320
背高さ（A）	mm	335～415	405～465	470～530
肘掛高（B）	mm	165～245	170～310	180～345
座奥行（C）	mm	240～300	290～370	340～440
足台高（D）	mm	195～300	320～420	310～420
座　高（E）	mm	490	490	500
※全　高（F）（ティルト最大起こし時）	mm	1055～1115	1115～1175	1180～1240
全　長（G）	mm	775	775	790

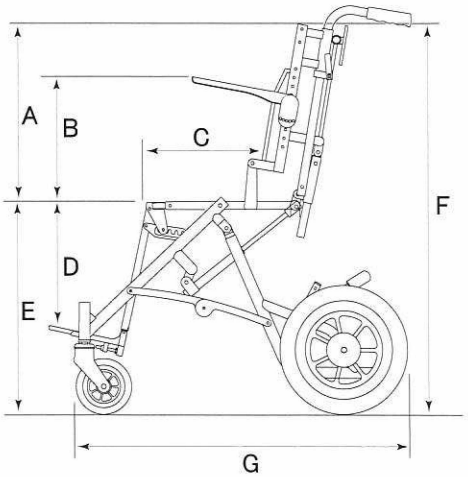
※ヘッドサポートを装着したおよその状態



ベーシック仕様

	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ
フレーム全幅（アームサポート外～外）	mm	470	495	520
車　幅（タイヤ外～外）	mm	570	595	620
背　幅	mm	410	435	460
座　幅	mm	365	390	415
足台幅	mm	270	295	320
背高さ（A）	mm	390	450	520
肘掛高（B）	mm	195～315	195～335	195～355
座奥行（C）	mm	255～315	300～380	350～450
足台高（D）	mm	120～225	235～335	255～375
座　高（E）	mm	490	490	500
全　高（F）（ティルト最大起こし時）	mm	1055～1115	1115～1175	1180～1240
全　長（G）	mm	775	775	790

※ヘッドサポートを装着したおよその状態



取り扱い業者・連絡先

2017.10.17

製造・発売元　(株)　きさく工房　福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11　TEL (092) 932-7600